

令和2年度 かほく市立七塚小学校 学校評価

重点目標	項目	具体的取組	担当	現 状	評価	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象調査時期	達成度	判定	薫陶	・取組みの成果と課題 □2学期に向けて
1	① 指導力向上 ② 学力向上 ③ 豊かな読書習慣	研究の重点を意識し、日々の授業に取り組むために、毎週授業でふりかえりをし、意識付けを図る	北川	△研究の重点「考え続けたい授業づくり」では、「まなびいず」を生かし、児童が主体的に学び、考え続けたい授業になるように意識した取り組みを重ね、広げていく必要がある	満足 努力	S:授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。 T:研究の重点「考え続けたい授業づくり」を意識して授業を構築している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7・12月 全教員 7・12月	91% 94%	A B	薫陶にも記載	(取組みの成果と課題) ○児童は、概ね授業に自ら進んで取り組んでいると考えている。 ○教員は、概ね研究の重点を意識して授業を構築できていると考えている。 ○教員は、概ね学力向上プランをもとに、授業改善を行っていると考えている。 ○「算数用語を使い、条件に沿った説明をさせているか」ということは、達成度4+3で100%である。 △授業での課題解決に向けて、到達度2の児童が7%、到達度1の児童が2%いる。 △「三角ロジックを用いて説明できるよう指導しているか」ということは、達成度4+3で85%である。 △1学期の学習の定着は不十分である。学年や教科で差が見られる。 (2学期に向けて) ・授業での課題解決にむけて到達度2や1の児童の傾向として、学級にいる特別な支援を要する児童に多いことが分った。 ・今後は学級にいる全ての児童の学習意欲を引き出す指導の工夫や配慮を、教員が共通理解することで、特別な支援を要する児童の意欲も継続を図ることができるようにする。 ・研究の重点が児童の実態に結び付くよう、研究授業や研究だより、相互授業参観などで、取り組みを広げていくようにする。 ・1学期の学習が定着できていない。今後、定着ができていない単元や児童をあらいだし、補充学習の時間や個別に定着を図っていくようにする。 ・三角ロジックを教員と児童がもっと意識して使うことができるようにするために、特に昨年度の学習アンケートから児童が難しいと感じている「理由」の部分をまなびいず委員会の児童を使って全校児童に分かりやすく提案していく。
		学力向上ロードマップを実働化させ、学力調査等の検証をもとにした授業改善を行うために、学年会シートで毎月ふりかえりをし、意識付けを図る	北川	○学力向上部のチームリーダーが主となり、連携してロードマップの実働化を図ることができている △学力調査等の検証を学力向上プランに生かし、組織的に授業改善を進めているが、徹底することができていない	成果 努力	S:国語科・算数科の学期末テストの平均点。 T:学力向上プランをもとに授業改善を図っている。	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均-5点以上平均点未満 1:全国平均-5点未満 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7・12月 全教員 7・12月	67% 93%	D B		
		学年に応じた読書活動ができるように、毎月、学年ごとに量・質・深さを高めるためのワークシートに取り組み、月末にふり返りをする	高澤	○全体的に読書を好んでいる児童が多い △図書室へ足を運ばない児童もおり、読書量の個人差が大きい △個々の選書に偏りがあり、幅広い読書になっていない △絵を見ているだけだったり、はじめを少し読んでいるだけだったりなど、読書の仕方が浅い	成果 努力	S:読書の量・質・深さが高まっている。 T:朝読書の取り組みを行っている。	4:クラス全員 3:クラス2/3以上 2:クラス半分以上2/3未満 1:クラス半以下 3:2回以上/月 2:1回/月 1:0回/月	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○3+2が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 月末 集計7・12月 学級担任 月末 集計7・12月	89% 75%	B C		
2	④ 英語能力の育成 ⑤ ICT活用	子どもたちが楽しめる学習活動について終礼や研修で伝える ・アシスタントとの打ち合わせを学年で情報交換したり、指導法について考える時間を設定する	諸江	○昨年度後期で、96%の児童が楽しいと感じていた △教科化に対応しながら、英語嫌いを作らないような指導をしていく必要がある	成果 努力	S:外国語活動に楽しく参加できている。 T:英語アシスタントと連携し、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う指導をしている。	4:とても楽しい 3:楽しい 2:あまり楽しくない 1:楽しくない 4:よく取り組んでいる 3:取り組んでいる 2:あまり取り組んでいない 1:取り組んでいない	○4+3が A:95%以上 B:90%以上95%未満 C:80%以上90%未満 D:85%未満 ○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7・12月 全教員 7・12月	96% 75%	A D	(取組みの成果と課題) ○アシスタントと年度初めに打ち合わせをし、活動のねらいを昨年度とあまり変えなかったことで、子どもたちが楽しいと思える活動につながった。 △研究授業を行うことはできたが、職員研修を開き外国語の指導方法について共通理解を図る場を設定できなかった。 (2学期に向けて) ・職員研修を開き、外国語の指導方法・評価方法等について共通理解を図る場を設定する。 ・アシスタントとの打ち合わせにおいて、活動内容や指導方法を他学年に広げられるようにしていく。 ※後期の評価対象を3年～6年の学級担任のみとする。	
		・研修と、その強化週間を設ける ・ICT機器の操作が苦手な教員には個別にミニ研修を行う	土田	○△活用する職員は増えているが、そうでない教員もいる △仮校舎のICT環境は悪い △苦手な職員への個別研修が必要である	努力	T:ICT機器を活用した授業を行っている。	4:よく取り組んでいる 3:取り組んでいる 2:あまり取り組んでいない 1:取り組んでいない	A+Bが A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	89%	C	(取組みの成果と課題) ○4良く取り組んでいると答えた教員が16人だった。授業でICT機器を使おうとする教員が増えている。 △残り2人には、個別に支援を行い、ICT機器を使いやすい環境を整えなければならない。 (2学期に向けて) ・機器の取り扱いが苦手な教員に対して、使いやすい機器(ぼうけん君等)を常設する。 ・多くの教員がタブレット等を使うことに慣れてきたので、今後ともより良い使い方を紹介していく。	
		自己肯定感育成	諸江	△昨年度後期で、91%の子ども・94%の保護者が学校へ行くのが楽しいと感じていた △昨年度後期で、88%の子ども・80%の保護者が将来の夢や目標をもっていると感じていた △昨年度後期で、85%の子どもが自分には良いところがあると感じていた △生徒指導の3機能を生かした授業を行い、その様子をHPや生徒指導便りで伝えていくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく必要がある	成果 成果 成果 成果	S:学校に行くのは楽しい。 P:子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている。 S:将来の夢や目標をもっている。 S:自分には良いところがあると思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 ○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月 (市1) 全保護者 7・12月 (市1) 全児童 7・12月 (市3)	91% 95% 86%	B B B	薫陶にも記載	(取組みの成果と課題) ○エンカウンターについて職員に紹介し、学期初めや月曜日のあつぷU Pタイムの時間を通して全学級行ったことで、子どもたちが楽しいと思える活動につながった。 △情報交換タイムの場を設定し、学校が楽しくないと感じている子の情報を共有することはできたが、指導方法について深く話し合うことはできなかった。 (2学期に向けて) ・学校が楽しくないと感じている子への指導方法について、情報交換タイム終了後、困っていることのある担任が積極的に旧担任等に聞きに行ったり、周りの職員がその児童に関する情報を積極的に担任に伝えに行ったりするように声かけをする。 ・アンケートを家庭に持ち帰り、保護者とともにアンケートに答える機会を設定する。 ・エンカウンターの方法や子どもが楽しいと感じる活動を紹介する場を設定していく。 (取組みの成果と課題) △キャリア教育に関する研修を行えなかった。 (2学期に向けて) ・キャリア教育に関する研修を行う。 (取組みの成果と課題) ○アンケート結果や児童の実態をもとに、学校や学級での取組を児童が主体的に考え、友達の良いところを積極的に伝える取組に取り組んだことで、自分の良さを感じる子が増えた。 △良いところがないと思う子への手立てが足りなかった。 (2学期に向けて) ・良いところがあると思えるようにするための手立てについて、情報交換タイムで話し合ったり、学年会シートで記入したりできるようにする。 ・情報交換タイムを通して、教師が子どもの良いところを積極的に報告し、担任を通して該当児童に伝えるようにする。
いじめ・不登校や問題行動の未然防止と心の	⑥ 自己肯定感育成	・調査や面談の結果を生かし、月に一度は、自己肯定感の低い子の支援方法についての協議の場を設定する ・エンカウンターを紹介し、取組週間を設ける ・キャリア教育について理解を深める研修を行い授業や褒める実践に繋げる ・情報交換タイムを設け、児童理解を深め子ども達の良さを積極的に伝えられるようにする ・児童会でよいとこ見つけの取組を考え、児童主体で取り組む	諸江	△昨年度後期で、85%の子どもが自分には良いところがあると感じていた △生徒指導の3機能を生かした授業を行い、その様子をHPや生徒指導便りで伝えていくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく必要がある	成果	S:自分には良いところがあると思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月 (市6)	88%	B		

教育・特別支援教育の充実	⑦ いじめ対応充実	<p>・いじめ防止基本方針と具体的な取組を共通理解する</p> <p>・児童会を活躍させるなど、児童主体でいじめ防止活動に取り組む</p> <p>・いじめに関する学校の様子や取組をHPや生徒指導便りや積極的に伝え、家庭と連携する</p> <p>・個人カードの記入期間を行事予定表に明記し、やりきるよう声かけをする</p> <p>・児童の情報を共有するため週2回の終礼を使う</p>	<p>○昨年度後期、100%の子がいじめはどんな理由があってもいけないと感じている</p> <p>△昨年度後期で、84%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると感じている</p> <p>○昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている</p>	<p>成果</p> <p>S:いじめはどんな理由があってもいけないと思う。</p> <p>成果</p> <p>P:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。</p> <p>努力</p> <p>T:いじめに関する取組(個人カード全員記入・情報交換タイムでの発信)や指導を行っている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>(市7)</p>	<p>99%</p>	B	<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○教職員がアンケート調査や情報交換タイムなどのいじめに関する取組に、熱心に取り組んでいる。</p> <p>△いじめはどんな理由があってもいけないと思わない子への手立てが足りなかった。</p> <p>△いじめに関する取組や子どもの様子を生徒指導便りやHPでもっと積極的に発信していくとよかった。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・いじめをいけないことと思わない子への手立てについて、学担と管理職、生徒指導主事が話し合う場を設定したり、個人面談や朝の会などを通じて、いじめがいけない理由について個人や学級に伝えていくようにする。</p> <p>・生徒指導便りやHPを通して、いじめの未然防止・早期発見につながる取組や普段の子どもの様子について積極的に伝えていくようにする。</p> <p>・いじめアンケートを家庭で回答してもらい、家庭と連携していじめに関する取組に取り組んでいくようにする。</p>	
	⑧ 特実教育の充実	<p>・共通実践体制の整備[SCの記録Fileの回覧、終礼での児童理解の深化]</p> <p>・OJTの充実[児童や保護者の対応、エンカウンター紹介、ケースカンファレンス]</p>	<p>△SCの情報共有等に課題がある</p> <p>○学年会やブロックでの児童理解の会、終礼での報告</p> <p>○児童理解やエンカウンターOJTを行った</p>	<p>努力</p> <p>T:学期に1回以上、気になる児童について共通理解する時間をもち、全職員が児童の状況との理解を深め、具体的な支援策を考える。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○実施回数が</p> <p>A:3回以上</p> <p>B:2回</p> <p>C:1回</p> <p>D:0回</p>	<p>担当教諭</p> <p>学期ごと</p>	%	B		<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○今年度は、新学期スタートの前に前年度からの児童理解という形で1回、6月の中旬に気になる児童全員に気づき票を書くという形で1回、合計2回1学期中に行っている。3回目は9月2日Q-Uを使ったケースカンファレンスを実施することを予定している。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・教務と連携して、児童を理解する時間を月予定に位置づけ計画的に行う。</p>
児童生徒の体力・運動能力の向上と食育の推進	⑨ 体力向上	<p>・月1回(年12回)の体育便りや、家庭でも運動する意識を高める</p> <p>・実技講習や準備運動例の提示により取組への教員の指導力を高める</p> <p>・休み時間等、体育以外での「スポチャレいしかわ」の取組を推進していく</p>	<p>○昨年度は、スポチャレいしかわに頑張っている児童は97%であり、体育の授業が楽しいと感じている児童は95%と高い</p> <p>△体育を除く運動実施時間1時間未満の児童は42%(内30分未満19%)であり、運動は楽しいと感じているものの、運動に進んで取り組む児童が少ない</p>	<p>満足</p> <p>学校や家で、運動に取り組んでいる。(体育を除く)</p> <p>努力</p> <p>S:スポチャレいしかわに取り組んでいる(月3回以上)</p>	<p>4:よく取り組んでいる</p> <p>3:取り組んでいる</p> <p>2:あまり取り組んでいない</p> <p>1:取り組んでいない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>全児童</p> <p>8・12月</p>	88%	B	<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○児童は長い休み時間には、体育館や運動場だけでなく、教室でも運動しながら過ごしている児童は多い。</p> <p>△知っている運動遊びの種類が少ないので教えてくことも必要。</p> <p>※スポチャレの取り組みについては体育を担当している先生のみで集計すると4+3は90%である。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・体育便りの内容を、体力向上面での運動の紹介だけでなく、運動遊びの例も紹介することで、休み時間にいろいろな運動を行えるように情報を与えていく(職員とも共有)。</p> <p>・体育館への移動がしやすくなった時に、水曜日朝の運動内でスポチャレも取り入れていく。体育の内容と合っていれば準備運動として、取り入れていく。</p>	
	⑩ 健康安全な生活習慣の定着	<p>・学期初めの生活調査は学担と連携して指導する</p> <p>・むし歯のある児童に個別指導を実施する</p> <p>・保健だよりや学校保健委員会等を通じて、積極的に家庭を啓発する</p> <p>・生活が乱れている児童について、保護者との相談の機会を持つ</p> <p>・給食時は机の上に歯ブラシ用意、「いただきます」時に歯ブラシ確認等、学担との連携を強化し、昼食後の歯みがきを徹底する</p>	<p>△昨年度は、95%前後が朝食を食べていると回答しており、ほとんどの児童が朝食を食べていると言える。しかし、朝食のバランスについては、「ヨーグルトのみ」「菓子パンのみ」など課題がある児童がいる</p> <p>△昨年度の生活調査でメディアルールが守れていない児童は10%おり、メディア時間の長さやそれに関連して就寝時刻の遅さが課題である。また、ゲーム等に起因したトラブルが増えている</p>	<p>成果</p> <p>S:毎日、朝ご飯を食べている。</p> <p>努力</p> <p>P:子どもは、朝食を毎日食べている。</p> <p>成果</p> <p>S:1日(平日)のメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)の平均時間</p>	<p>4:毎日食べる</p> <p>3:一週間に1日食べない</p> <p>2:一週間に2、3日食べない</p> <p>1:ほとんど食べない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:99%以上</p> <p>B:97%以上99%未満</p> <p>C:95%以上97%未満</p> <p>D:95%未満</p>	<p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>(市2)</p>	96%	C		<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○学期初めに「早寝早起き朝ご飯がんばり週間」で、朝ごはんをバランスよくしっかり食べることや学年に応じた就寝時刻を守ることを、1日3回歯みがきをすることについて指導し、取り組んでいる。また、給食時に机の上に歯ブラシを置くことで歯みがきの習慣化を図っている。その結果、朝食については、大多数(96%)の児童が習慣化されている。</p> <p>※評価基準を厳しくしたため、朝食に関してはC評価となったが、昨年度までの結果と比べて悪化していない。</p> <p>△一部の児童については、毎日朝食を食べることが習慣になっていない。</p> <p>△平日2時間以上メディアに触れている児童が19%いる。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・「早寝早起き朝ご飯がんばり週間」で、定期的に朝食の大切さを伝えていく。課題がある児童には、個別に相談の機会を持つ。</p> <p>・養護教諭による保健指導でメディアの心身への影響について指導していく。また、2学期以降は「早寝早起き朝ご飯がんばり週間」の中でメディアのトラブルやルールについて親子で話し合う場を設けることで家庭と連携していく。</p>
	⑪ 食育の充実	<p>・毎月の学年会で、食に関する年間指導計画を確認し、教科や特別活動、給食時の指導体系を確認し、確かな指導に結びつける</p>	<p>食と、健康、生産、調理等とを関連させて指導しようという意識が弱いため、児童は食事が健康につながっていたり食に対する感謝の気持ちが薄かったりしている</p>	<p>努力</p> <p>T:給食指導年間計画に従って授業活動を進めている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p>	100%	A		
⑫ 会議・選行事の精	<p>・主任との連携を強め、滞りを見つけ改善する</p> <p>・学年会シートの充実</p> <p>・提案は簡潔で分かりやすく行うように事前に確認する</p>	<p>○週計画と掲示板との併用による、確実な情報共有</p> <p>△会議の時間短縮のための、簡潔で分かりやすい提案</p>	<p>努力</p> <p>T:子どもと向き合う時間や教材研究する時間を確保するために、会議・行事の精選・効率化に努めている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:90%</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p>	95%	A	<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○出張がオンライン配信になったことにより校内で業務する時間を確保できたことや学年会シートを見直し、分掌に必要な項目を吟味・確認できたことが大きな要因となっている。</p> <p>△会議の時間を短縮できていない。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・教職員全員が共通理解し、効果的な指導ができるよう、簡潔で分かりやすい提案や時間と内容の精選を促す。</p>		
教職員の働き方改革の推進	⑬ カリ・マネ	<p>教科横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを充実させる</p> <p>・教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を行う</p> <p>・学年会シートで進捗状況を確認する</p>	<p>△臨時休業による授業時数確保のため、教科横断的な視点で授業を行う必要がある</p> <p>○学校CNと連携し、外部人材の活用を円滑に進めることができる</p>	<p>成果</p> <p>T:教科横断的な視点でカリキュラムを開発した</p> <p>満足度</p> <p>S:学校の先生以外の人と勉強するのは、ためになる</p>	<p>4:3つ以上</p> <p>3:2つ</p> <p>2:1つ</p> <p>1:なし</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p>	88%	C	<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○学校再開後に年間指導計画の見直しを行ったため、教科横断的な視点でカリキュラムに取り組もうとする意識が高い。</p> <p>○児童の多くは、地域人材や養護教諭・栄養教諭などと授業や体験活動に取り組むことに意欲的である。</p> <p>△カリキュラムを計画通り実施できていない現状が見られる。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・計画的にカリキュラムを実施するよう、週案・学年会シートでの確認を行う。</p> <p>・外部人材の活用は、制限があり、円滑に進めることができていないが、社会情勢をみながら進めていく。</p>	
	⑭ 外部との連携	<p>・超過勤務時間のデータの全職員への提示により、業務の精選や平準化の意識を高める</p> <p>・PTA分担表で依頼内容を明確にしたり、便り等で保護者に理解を求めるとして、教職員の働き方改革への理解と協力を得やすくする</p>	<p>○職員一人当たりの時間外勤務の月平均は一昨年は47時間、昨年は41時間と減少してきている。また、PTAによる啓発活動や役割分担も少しずつ定着してきている</p> <p>△業務の平準化には依然として課題が残り、80時間を超えた職員も延べ16人いた</p>	<p>成果</p> <p>S:50時間以上の人数が減らず<参考値> 昨年度4~7月54時間 8~12月44.8時間 1~3月31時間</p> <p>努力</p> <p>P:県や市の方針を理解し、教職員の本務である児童の教育に向き合う時間を確保できるように協力している</p>	<p>50時間以上の人数が</p> <p>4: 2人以下</p> <p>3: 3~5人</p> <p>2: 6~9人</p> <p>1: 10人以上</p>	<p>○50H以上の人数が</p> <p>A: 2人以下</p> <p>B: 3~5人</p> <p>C: 6~9人</p> <p>D: 10人以上</p>	<p>時間外勤務調査</p> <p>7・12月</p>	100%	A		<p>(取組みの成果と課題)</p> <p>○臨時休校で職員の時間外が大幅に減ったことと、お便りでの啓発やPTA役員との役割分担が進んでいることで保護者の協力が得られていることと、4~7月の超過勤務の平均は、26.9時間、50時間超え職員は1名と良好で会った。</p> <p>△休校明け6~7月の超過勤務平均は41.6時間で、50時間超えの職員は延べ11人いた。職員がほぼ固定化している。</p> <p>(2学期に向けて)</p> <p>・超過勤務が50時間を超えている職員に対して個別に聞き取りを行い、問題点を探り、業務の分散もしくは効率化できないかを検討をする。</p>